

戦国合戦の舞台

織田信長（1534—1582 年）、豊臣秀吉（1537-1598 年）、徳川家康（1543-1616 年）は日本で非常に人気がある戦国武将です。

しかし、これら 3 人の戦国武将は犬山城を獲得することを望んでいました。

犬山城の歴史は、織田信長の叔父である織田信康（?-1554 年）が城を築いたときに始まったと言われています。

織田信康が亡くなった後、彼の子どもの信清は城主となり、信清と織田信長は領土を巡って争いました。

永禄 8 年（1565 年）に、信清はついに彼のいとこ織田信長に攻められ甲州に退去し、織田信長は犬山城を攻略しました。その後、本格的な美濃への侵攻を開始しました。

美濃を占領するには、犬山城を確保することが非常に重要でした。

天正 12 年（1584 年）小牧長久手の戦いの時、城主は織田信雄（1558-1630 年）の家臣、中川定成でした。

しかし、羽柴秀吉（のちの豊臣秀吉）の手に落ち、豊臣秀吉は犬山城に入城し、小牧山城に本陣を構えた徳川家康と戦いました。